

リハ部企画
「討議！」

コロナ禍の課題、そして未来に向けて
～リハビリテーションの観点から～」

施設WG

共通テーマ①コロナ後、リハビリの提供
で控えたこと（接触・頻度など）

- 家屋調査（自宅訪問）
- 面会
- 対面でのコミュニケーション

共通テーマ②リハビリの対応として課題 になったこと

- 物品のこまめな消毒など、消毒の頻度については業務量負担増の影響も大きく見直しが必要では。消毒の間利用者にもリスクも生じる事もある。
- 家屋調査時に自宅に行けず、その把握が行いにくくなった。
- 対面でのコミュニケーションが制限され、難聴など利用者によっては会話が難しくなった。
- 声掛けなど、リハビリ提供時にも制限が生じる。

共通テーマ③リハビリの対策として行ったこと

- リモートでの面会・電話対応など代用手段
- 家屋評価で自宅の写真を持って来てもらう
- 我慢せずに自らの希望を言い、それを叶える「希望実現プロジェクト」を行うなど、限られた環境下でもQOLに関わるケアを提供している施設もあり

共通テーマ③課題や対策を通して、取り組め
そうだと感じたこと・取り組んでみたいこと

- IT機器を使用したケア
- コロナ禍に至る前と比較して、生活環境
ががらりと変わらない様な対策

各ワーキンググループテーマ：
面会制限やリハビリ制限による利用者様のメンタル面の
低下・機能向上への影響について

- 家人に会えない利用者がある事でうつ症状がみられる
- 家人側が利用者様の状態や能力を把握しにくくなった。
- おやつを持ちこみが増えるなどの問題が生じた。

まとめ

- コロナ禍での家人とのやりとりの難しさ
- マスク着用下でのコミュニケーションなど、利用者のケアの難しさ
- テレビ画面を使用してプログラムを提供するなど代用手段を探していけたら
- 限られた環境（施設が出せる費用にもよる）の中でこういったケアが出来るか
- 能力維持も大事だが、QOLも重要。
- VR（ドローンで撮影した映像をVRで見る） ・ IpadなどのITを使用したケアを提供するなど、安全面を考慮しつつケアの充実もはかれる施設が生き残っていけるのでは。